



神奈川・今小路西遺跡（いまこうじにしえき）（福祉センター用地）

- | | | | |
|---|---------------|-------------|----------------------|
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 所在地 | 神奈川県鎌倉市御成町 |
| 6 | 遺跡の年代 | 調査期間 | 一九八七年（昭62）一月～一九八八年五月 |
| 5 | 遺跡の種類 | 発掘機関 | 今小路西遺跡発掘調査団 |
| 4 | 遺跡の年代 | 調査担当者 | 河野真知郎 |
| 3 | 遺跡の種類 | 古代官衙跡・中世市街地 | |
| 2 | 遺跡の年代 | | |
| 1 | 遺跡の種類 | | |

遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡台帳では南北1km以上もの範囲が「今小路西遺跡」とされてい

紹介する木簡を出土した地
内に固有名詞か地番を入れ
て区別しているが、ここに
る。発掘調査地点には()

調査地点は鎌倉平野の西端部で、北背後に尾根を背採つてゐる。

負うが、山裾の沖積地といえる。現地表の標高は7mほどである。調査地点の北方50mには、一九八五年度に、「天平五年」銘木筒を出土した今小路西遺跡（御成小学校内）がある。

発掘調査では、近世水田跡と中世末の溝の下層に、中世前期の生活面が検出された。この面の北部は東西方向の自然流路（川跡）になつており、前述の御成小学校内の土地区画とは異なる方向を示している。調査区東部には北方河川に注ぐ溝が検出されたが、これは道路側溝を兼ねる武家屋敷外周の溝であろう。この溝より東側は武家屋敷、西側は町屋になつていたものと考えられる。

木筒はこの河川に注ぐ溝の鎌倉時代後期頃の堆積土より出土した（川岸より南へ8mの地点）。周辺の覆土からは陶磁器片や土器片とともに、木器（板草履、箸、漆塗碗・皿など）や食物残滓（貝、魚骨、鳥獸骨、瓜・栗・桃の種子など）が出土している。遺物出土状況は、武家屋敷の外周の溝でのあり方ではなく、庶民が生活遺物を道路側溝に盛んに捨てていた様子がうかがえる。このことが木筒の性格について、ある種の示唆を与えてくれるかもしれない。

なお、本地点の最下層では、古代官衙に関連するかと思われる掘立柱建物が検出され、中世以前には北方河川はずつと南を流れている、この地は御成小学校内の郡衙政庁と考えられる場所と地つづきだったと思われる。一九八九年度も発掘調査は継続しており、古代については別の機会に紹介したい。

(1) 「今日いめ参られ

かし故上り□
に□□□れ 」

88×56×6.5 065

長方形の木板の片面に三行にわたって文字が墨書きされている。長い板材を横に切って作った白木の板で、中央で二つに割れているが完形品である。中世に多い折敷板断片を使用したものではなく、独立のカードのようなものと思われる。釈文は鎌倉国宝館長三浦勝男氏によるものだが、「ひとつの読み方として」示されたものなので、最終判断ではないことを断つておく。

内容は措くとして、カード形の完結した板に文字の書かれた例は、鎌倉においては淨明寺稻荷小路遺跡と雪ノ下南御門遺跡に、一例ずつ検出されているが、いずれも内容が判読できていない。本例の場合、呪文や戯れ唄、落書の類ではなく、伝達文のように思われるので、中世の雑多な木簡についてももう少し分類しながら検討を加えてゆく必要性を感じる。

9 関係文献

1988年出土の木簡

河野真知郎 「今小路周辺遺跡(御成小学校内)」『木簡研究』第八号
一九八六年)

(河野真知郎)

